

愛知大学 3つのポリシー (2020年度向け)

■国際コミュニケーション学部 国際教養学科

学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

国際コミュニケーション学部では、様々な国や地域の人々、また、多様な社会・文化背景をもつ人々とコミュニケーションをとり共生できる能力を身につけ、地域内でも国外でもお互いを尊重し理解を深め合える柔軟な人材の育成に努めています。

そのために、国際教養学科の学生には、言語とともに文化や歴史など広い視野に基づく教養と専門知識を身につけ、真の異文化理解に繋げることができる国際感覚をみがくことを求めます。

履修規程に定められた科目区分毎の卒業必要単位数およびコース別の履修要件等をすべて満たし、厳格な成績評価と「卒業研究」の審査を経て、総計124単位以上修得した上で、以下の能力や知識を有すると判断された学生に対し、学位を授与します。

- (1) 国籍・文化・価値観・宗教など、異なるバックグラウンドを持った人々を理解し、これらの人々と双方向的な交流をすることができる。
- (2) 英語および諸外国語の習得を通じて、バランスのある国際感覚を養い、グローバルな世界で柔軟に対応できる姿勢を身につけている。
- (3) 異文化理解に基づいた健全なクリティカルシンキングを身につけ、自文化を客観視し相対化することのできる複眼的な思考ができる。
- (4) 幅広い学際的な教養と専門分野の体系的な知識を身につけると同時に、自ら課題を発見・解決する能力を習得し、それらの成果を卒業研究に結実させる。

教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)

国際コミュニケーション学部国際教養学科では、異文化理解を通して国際的なコミュニケーション能力を習得し、自国文化についての知見をもちながら国際的な場で活躍できる人材の養成を目的としています。その実現のために、以下の方針に沿ってカリキュラムを作成しています。

- (1) 共通教育科目には、幅広く深い教養と総合的な判断力、そして豊かな人間性と倫理を涵養するよう科目を置いています。また、多文化状況を生き抜く基本的ツールとしての外国語科目を配置し、学生は第1外国語(英語指定)および第2外国語を履修します。
- (2) 専門教育科目には、文化をめぐる個別の現象について国際比較を行うための方法論と論理を学ぶための「基幹科目」、専門について理解を深める「展開科目」、より深く専門に関連するテーマの研究を展開するための「演習科目」を配置しています。英語およびそれ以外の外国語の運用能力を身につけ、関心を有する地域の生活レベルから思想・芸術に及ぶ文化、さらには政治・経済状況に至る総合的で深い世界理解へと導くよう教授し、卒業後それらを応用的に展開していくための能力を付与し、国際人として自己を形成していく基礎を育成します。

入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)

国際コミュニケーション学部国際教養学科では、異文化理解を通して国際コミュニケーション能力を習得し、自文化についての知見をもちながら、国際的な場で活躍できる人材の育成を目的としています。そのため、生きたコミュニケーション能力を高めるための英語を身につける密度の濃い学習プログラムをはじめ、より洗練された日本語能力を磨きながら、多言語環境にも慣れていくための学習条件を整備しています。さらに、アメリカ、ヨーロッパ、アジア(日本を含む)をめぐる国際関係や文化、政治、社会について国際人としてのコモンセンスを培い、国際フィールドワークを実施して、人・モノ・コトに関する具体的な交流経験を深めます。諸外国からの留学生も広く受け入れ、多文化環境が自然に生まれるよう様々な工夫を凝らしています。

このような観点から本学科では以下のような学生を求めます。

- (1) 異文化を理解して国際的な場で活躍したいと考えている人。
- (2) アメリカ・ヨーロッパ・アジア(日本を含む)をめぐる文化、民族、国際関係について関心があり、国際社会や世界の中の地域社会に貢献したいと考えている人。
- (3) 日本語・日本文化を海外に紹介したいと考えている人。